

1 日詰地区

①平井家住宅

八戸藩の飛び領地である志和4か村の産米を江戸へ送るため、倉庫・搬送を担う御蔵宿に指定されたのが郡山河岸に近い平井家でした。この住宅は、郡山を基盤に豪商として成長した平井家が、大正10年(1921)に伝統的な町屋を継承しつつ、近代的な意匠と手法を随所に導入して建築した近代和風住宅です。近代紫波郡の政治・社会・文化を先導してきた日詰町のランドマークになっています。

②勝源院の逆ガシワ

カシワは、幹が垂直に伸びて枝を張る落葉広葉樹ですが、勝源院の本堂裏庭にある高さ12.2mのカシワは、主幹が地上に出たあと、地面際で4本に枝分かれし、それぞれがそのまま地を這うように立ち上がっています。根が枝になったような姿から「逆ガシワ」の異名で親しまれています。この「逆ガシワ」は、本堂前の入母屋瓦葺きの巨大な山門とともに、古刹勝源院のシンボルになっています。

③来迎寺とマリア観音

日詰町発祥の地「習町」に建つ来迎寺には、佐比内の旧家から秘仏として預けられたマリア観音像が伝わっています。キリシタン信徒が安産・育児の祈願の対象として、観音像を聖母マリアになぞらえて信仰したものと考えられています。「産金の里」と言われた藩政時代の志和郡において、庶民の素朴なキリシタン信仰の実態を伝える数少ない宗教遺産で、極めて貴重な文化遺産と言えます。

④名誉町民・橋本善太

橋本善太は、蚕種製造において強健で生糸歩合の高い一代雑種「大安橋」を作出しました。また、昭和14年(1939)には、鶏に蚕の遺伝を応用、改良した鶏が世界で初めて年間365個の卵を産むという世界新記録を樹立しました。さらに、産卵率が高く粗食に耐えて肉質も良い多産鶏「ゼンタック」を産出させ、世界の養鶏家として歴史的な足跡を残しています。

⑤名誉町民・異聖歌

異聖歌は、童謡「たきび」の作詞者として知られる童謡詩人です。「たきび」は、平成19年に文化庁が選定した「親子で歌いごう日本の歌百選」に選ばれています。後半生を東京都日野市で過ごしたことから、JR中央線豊田駅の発着メロディに採用されています。日詰小学校・赤石小学校・紫波第一中学校など、県内外の校歌の作詩も数多く手がけ、現代に歌い継がれています。

⑥郡山

郡山は、盛岡藩領内では花巻・遠野・三戸などとともに重要な在町として位置づけられ、その城下には代官所や御蔵所など藩の重要な施設が置かれました。また、奥州道中の宿駅、北上川舟運の河岸場として繁栄し、明治期以降も紫波郡の政治・社会・文化の中核にありました。郡山は近世以降、紫波郡あるいは日詰町の代名詞的な地名として呼称され、多くの人々の記憶の中に定着しています。

⑦外来商人

近世初期、盛岡藩では外来商人に種々の経済的特権を与え、交易圏の拡大、臨時的な定期市から常設店舗商業への転換を進めました。郡山では近江・美濃・伊勢国などから多くの領外商人が来住し、独特の商法や経営理念によって地域経済を牽引し、盛岡藩における主要な地方経済圏としての地位を確立しました。特に近江商人は、酒造に代表される醸造業発展に多大な功績を残しています。

⑧旧紫波郡役所庁舎

旧紫波郡役所は、県内の役所庁舎建築において、風雪にも強い下見板の擬洋風建築の先駆的存在と考えられており、県内では下見板の擬洋風建築物として現存する唯一の建造物です。当初の基本構造を残しており、明治期の県内の郡制や地方自治制の変遷を知る上で貴重であるとともに、県内に建設された郡役所のうち唯一現存する建造物として学術的・歴史的にその価値が高く評価されています。

⑨紫波夏まつり

紫波夏まつりは、半世紀の長い歴史をもつ夏まつり行事で、紫波町運動公園や日詰商店街を会場に毎年開催されます。夜には大小の花火が打ち上げられ紫波町の夜空を彩り、屋台村も登場します。日詰商店街では恒例の盆踊り大会のほか、地元中学生による吹奏楽の演奏、佐比内金山太鼓や郷土芸能の公演、御神輿の運行などが行われ、町内外から多くの人々が参集する地域最大の夏まつりです。